

『個が光るイノベーション』で日本経済復活の礎を



日本商工会議所 正 会頭 岡村 正 氏

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。中小企業の活力強化で真の成長実現へ

世界経済は先進国において回復の動きが緩慢なもの、多くの新興国では内需の拡大が続いており、総じて緩やかな回復傾向にあると言えます。一方、日本経済は、昨前半半に持ち直しの動きが見られたものの、現在は足踏み状態が続いています。今後、景気の持ち直しが期待されるものの、デフレの影響に加え、依然として高い為替水準など、先行きの不透明感は払しょくできておりません。

こうした中、日本経済が自律的な景気回復を果たし、持続的な成長を実現するには、政府が策定した「新成長戦略」の具体化に、官民一体でスピード感を持って取り組むことが重要です。中でも、地域経済と雇用を

支える中小企業の活力強化なくして、真の成長実現はあり得ないと考えています。私は、新成長戦略実現会議などの場を通じて、中小企業を「新成長戦略」実現の中核的な担い手として位置づけ、中小企業が参画できるより多くのプロジェクトが具現化されるよう働き掛けてまいります。

イノベーションに挑戦を促すことは、昨十一月に会員各位のご推挙をいただき、引き続き日本商工会議所会頭の任を務めさせていただきますことになりました。中小企業の活力強化と地域経済の活性化という商工会議所の不変的な使命の下、「企業、地域、そして社会から、より多くの支持と信頼が得られる商工会議所」を具現すべく、全国の商工会議所の皆様の先頭に立ち、全力で邁進する所存です。特に、グローバル化の進展に伴う世界経済の構造変革の中で、地域や企業が潮流変化に的確に対応すべく、勇気を持ってイノベーシ

ンに挑戦するための取り組みに注力してまいります。考えております。

商工会議所運営の3つの基本方針

地域経済の活性化や中小企業の活力強化に向け、商工会議所自らが、これまで以上に取り組みを強化・推進することも重要であります。このため、私は再任にあたり、商工会議所の運営について、三つの基本方針を示させていただきます。

第一は、現場主義の徹底です。私は会頭就任以来、「現場に立脚した活動こそが、商工会議所の『原点』である」とともに、「強み」である「引き継ぎ日本商工会議所会頭の任を務めさせていただきますことになりました」とともに、可能な限り各地を訪れ地域の実情を直接伺い、意見交換することにも努めて参りました。地域経済の活性化を実現するものには、この地域をどのような形にするのか、という「ビジョン」を、企業・市民・行政が共有しなければなりません。商工会議所が地域の核として先頭に立ち、リーダーとしての役割を果たす必要があります。そのためにも、地道な「全会員訪問」活動を通して、「現場の生の声」を意識していきたい

と存じます。

第二は、潮流変化に對峙するイノベーションの推進です。世界的な潮流変化の波が押し寄せる中、中小企業は生き残りを懸けてイノベーションに取り組みなければならぬ時代を迎えています。

世界経済の一体化が進む中、中小企業も積極的に海外展開を図っていくことが求められています。日商で昨年を「国際化元年」と位置付けて、APEC中小企業サミットの主催等をはじめ、様々な取り組みを進めてまいりました。本年は「中小企業国際化支援特別委員会」を中核として、商工会議所のグローバルネットワーク化を進め、会員企業や地域の国際化への取り組み支援を強化していく所存です。

また、市場競争力を強化するためには、生産性向上が不可欠であります。ITを戦略的に活用し、具体的な業務改革に結び付けるべく、「IT経営推進専門委員会」を新設致しました。この委員会を中心に、本格的なIT経営導入と更なるイノベーションを促進させたいと考えております。

平成23年新年知事あいさつ



長野県知事 福田 豊 氏

会員の皆様、あけましておめでとうございます。私は、知事就任以来、誰もが豊かさを実感できる「とちぎ」を創り上げるため、対話と協調による県民中心、市町村重視の県政を基本として、各種施策を推進して参りました。

昨年、厳しい財政状況の中、自律的な行財政基盤の確立に向けた「とちぎ未来開拓プログラム」の実質的な初年度として、その着実な実行を図りながら、当

面の最重要課題である「経済・雇用対策」に全庁を挙げて取り組んで参りました。一方、少子高齢化の進行と人口減少の本格化、経済のグローバル化、さらには、地球環境問題の深刻化など、私たちは今、時代の大きな変化のただ中にいます。加えて、円高の進行など経済情勢の急激な変動など、県政を取り巻く環境は日まぐろしく変化しています。

県では、こうした社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応するため、現在、新しい五か年計画である「新とちぎ元氣プラン（仮称）」の策定を進めております。新プランでは、限られ

基本方針の第三は、商工会議所自身の「組織イノベーション」です。商工会議所自らが活動理念や組織のあり方を見直し、潮流変化に対応する態勢を整えていかなければなりません。日本商工会議所と各地商工会議所のネットワークをより強固なものとし、広域連携や農工商連携など、商工会議所の連携活動をさらに進めてまいります。

本年は第二十八期の実質的なスタートの年であり、これらの基本方針に沿った取り組みを鋭意進めるとともに、着実な成果の積み重ねに努めてまいります。同時に、大きな潮流変化に直面している時代だからこそ、商工会議所の原点に立ち返る必要があります。「商工業者の声を集約し社会に訴える」という決意を、一翁の思いを堅持し、日本の経済の礎を築くべく、「個が光るイノベーション」の推進に注力していきたいと考えています。

また、市場競争力を強化するためには、生産性向上が不可欠であります。ITを戦略的に活用し、具体的な業務改革に結び付けるべく、「IT経営推進専門委員会」を新設致しました。この委員会を中心に、本格的なIT経営導入と更なるイノベーションを促進させたいと考えております。

「現場に立脚した活動こそが、商工会議所の『原点』である」とともに、「強み」である「引き継ぎ日本商工会議所会頭の任を務めさせていただきますことになりました」とともに、可能な限り各地を訪れ地域の実情を直接伺い、意見交換することにも努めて参りました。地域経済の活性化を実現するものには、この地域をどのような形にするのか、という「ビジョン」を、企業・市民・行政が共有しなければなりません。商工会議所が地域の核として先頭に立ち、リーダーとしての役割を果たす必要があります。そのためにも、地道な「全会員訪問」活動を通して、「現場の生の声」を意識していきたい

と存じます。

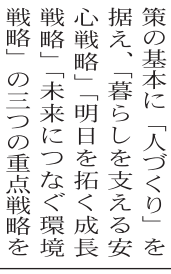
第二は、潮流変化に對峙するイノベーションの推進です。世界的な潮流変化の波が押し寄せる中、中小企業は生き残りを懸けてイノベーションに取り組みなければならぬ時代を迎えています。

世界経済の一体化が進む中、中小企業も積極的に海外展開を図っていくことが求められています。日商で昨年を「国際化元年」と位置付けて、APEC中小企業サミットの主催等をはじめ、様々な取り組みを進めてまいりました。本年は「中小企業国際化支援特別委員会」を中核として、商工会議所のグローバルネットワーク化を進め、会員企業や地域の国際化への取り組み支援を強化していく所存です。

また、市場競争力を強化するためには、生産性向上が不可欠であります。ITを戦略的に活用し、具体的な業務改革に結び付けるべく、「IT経営推進専門委員会」を新設致しました。この委員会を中心に、本格的なIT経営導入と更なるイノベーションを促進させたいと考えております。

また、市場競争力を強化するためには、生産性向上が不可欠であります。ITを戦略的に活用し、具体的な業務改革に結び付けるべく、「IT経営推進専門委員会」を新設致しました。この委員会を中心に、本格的なIT経営導入と更なるイノベーションを促進させたいと考えております。

太田商工会議所



太田商工会議所 正 会頭 田 寛 氏

昨年の経済を顧みますと、世界では、新興国が海外からの投資や内需の拡大で、高い経済成長を続けました。一方国内においては、前半は、自動車や電機産業を中心に好調な輸出に支えられて大企業の生産は高水準を維持し、景気は持ち直しの動きが見られましたが、秋以降は、急激な円高や長引くデフレの影響で、中小企業にとりまして停滞感が強く感じられた一年でありました。

このような状況の中で、

昨年の経済を顧みますと、世界では、新興国が海外からの投資や内需の拡大で、高い経済成長を続けました。一方国内においては、前半は、自動車や電機産業を中心に好調な輸出に支えられて大企業の生産は高水準を維持し、景気は持ち直しの動きが見られましたが、秋以降は、急激な円高や長引くデフレの影響で、中小企業にとりまして停滞感が強く感じられた一年でありました。

このような状況の中で、

館林商工会議所



館林商工会議所 正 会頭 本 栄 一 氏

平成二十三年は、「挑戦・創造・連携する商工会議所」をめざし、重点目標を五つに設定したいと思っております。

第一に「館林商工会議所のビジョン」を策定し、これからの商工会議所が進むべき目標を明確にし、役員はもとより事務局の充実にも努めてまいります。

第二に「会員の拡大と財政の健全化対策」が不可欠です。

第三に、まちづくりの展開です。行政と商工会議所等が協働し、まちづくりを進めるべきだと考えます。

第四に、原点に戻って、会員企業の相談・支援に対応できる体制をつくっていかねばなりません。

第五に、会員とのコミュニケーションを強化したいと思います。

「疾風に勁草（けいそう）を知る」。激しい風が吹いてはじめて丈夫な草が見分けられるという中国の故事で、「困難に遭って初めて人間の価値や強さがわかる」ことを意味します。館林商工会議所もさまざまな困難を乗り越えていく強さを発揮しなければなりません。本年は、このような運営方針を踏まえ、「一味違う商工会議所」「キラリと光る企業を育て、産業とまちをつくる」商工会議所をめざしたいと考えております。

「桐生・みどり両市の合併促進」は、最重要課題として両市経済界の實質的な交流と併せて、本年も産業界から合併実現に向けての環境を整えていきたいと存じます。

商工会議所の存在意義の根幹を成す政策提言活動、中小零細企業に対する経営支援活動については従来にも増して力を注いで参りたいと存じます。そのために、部会・委員会の活性化を図り、より多くの会員の声を反映させることに努力し、より良い桐生の地域づくりに積極的に取り組んで参る所存であります。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

足利商工会議所



足利商工会議所 正 会頭 早 川 慶 治 郎 氏

足利商工会議所は、「人づくりに」「モノづくりに」「まちづくりに」を基本理念に、より多くの成果を上げるために、役員議員そして職員が、一丸となって、ゼロベータから見直し、取り組んでまいります。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

足利商工会議所は、「人づくりに」「モノづくりに」「まちづくりに」を基本理念に、より多くの成果を上げるために、役員議員そして職員が、一丸となって、ゼロベータから見直し、取り組んでまいります。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

「人づくりに」は、日本人の特性である勤勉、丁寧、正確、協調、寛容さなど、戦後六十五年で失いかけてきた本来の強さ、特性、能力を思い起こすことだと考えます。

